



令和2年 水稻栽培暦

J A 紀 南
西牟婁振興局農業水産振興課監修
令和元年11月作成

稲の生育と窒素の効かせ方

防除時期	は種期	育苗期	本 田 初 期			本 田 中 期			本 田 後 期			収穫後				
	生育順	田植	活着期	有効分けつ期 くき数の確保	無効分けつ期 肥切	幼穂形成	穂ばらみ	出穂 傾穂期	乳熟 登熟期	糊熟 登熟期	刈取					
生育と窒素の効かせ方																
	コシヒカリ日数(例)	-20日	0日	+7日	+20日+25日	+30日	-40日-35日	-25日-18日	-10日	0日	+7日	+14日	+25日	+30日		
日 数	育苗期	5/1	5/8	5/21	5/26	5/31	6/8	6/13	6/23	6/30	7/8	7/18	7/25	8/1	8/12	8/17
水 管 理		やや深水	深水	深水	中干し	中干し	中干し	中干し	同	断	灌	水	水	水	水	水

★土壌診断を行い、適正施肥に努めよう！

農業中毒の相談は日本中毒情報センター(大阪)TEL072-727-2499(24時間対応)

稲育苗箱の消毒

農薬用浄化剤	対 象	水10ℓ当り薬量	希釈倍数	使用方法
ケミクロンG	プラスチック資材(稲育苗箱)、および育苗用数紙	20g	500倍	瞬間浸漬またはジョウロ散布後、水切り乾燥

施肥基準(10a)

土づくり対策	深耕 稲フラ腐熟促進 石灰窒素 20kg/10a	農力アップ100kg+アツミン40kg
--------	--------------------------------	---------------------

防 除

防除時期	病害虫名	薬 剤 名	水100ℓ当り 薬量	使用基準	
				回数	使用回数
育苗期	種子消毒 (24時間浸漬)	ばか苗病 もみ枯細菌病 イネシガレセンチュウ	テクリドCフロアブル 200倍 スミチオン(乳) 1000倍	—	浸種前 1回 は種前 1回
	は種時 発芽後	苗立枯病	タチガレン液剤 500倍	1箱当り 500ml	は種時及び 発芽後 2回以内
	田植前日 又は 当日	ウンカ類 ツマグロヨコバイ イネミスズムシ いもち病	ピルターフェルテラチス(粒) (コブノメイガも登録あり) 又は ピームアドマイヤー(粒)	1箱当り50g 1箱当り50g	移植 3日前 当日 1回 移植 2日前 当日 1回
本 田	初 期	いもち病	ダブルカットフロアブル 1000倍	100ml	移植期 まで 2回以内
	中 期	紋 枯 病	モンカットフロアブル 1000倍	100ml	14日前 まで 3回以内
	出穂まで	コブノメイガ ウンカ類 ツマグロヨコバイ いもち病	MRジョーカー-EW 2000倍 ダブルカットフロアブル 1000倍	50ml 100ml	14日前 まで 2回以内 移植期 まで 2回以内
期 後 期	コブノメイガ(多発時)	マトリックフロアブル 1000倍	100ml	7日前 まで 2回以内	
	カメムシ類 (ウンカ類も登録あり) ウンカ類幼虫	スタークル顆粒(液) 2000倍 (3000倍) アロードフロアブル 1000倍	50g 100ml	7日前 まで 3回以内 7日前 まで 4回以内	

収穫後雑草防除

水田作物刈取後 (雑草生育期)	1年生雑草	タッチダウンIQ	薬量 250~500ml/10a (散布水量25~100ℓ/10a)	1回
	多年生雑草		薬量 500~1000ml/10a (散布水量25~100ℓ/10a)	

粒剤・豆つぶ剤一貫防除

防 除 時 期	病 害 虫 名	薬 剤 名	10a当り 薬 剤 量	使用基準	
				収穫前日数	使用回数
田植前日 又は 当日	いもち病・紋枯病・ウンカ類 ツマグロヨコバイ・コブノメイガ コブノメイガ・イネシガレ・ツマグロヨコバイ イネシガレ・イネミスズムシ	フルサポート箱(粒)	1箱当り50g	移植2日前 当日	1回
本 田 中 期	いもち病 紋枯病 ウンカ類 カメムシ類	ゴウケツモンスター(粒) 又は	3kg	出穂5日前まで 但し収穫45日 前まで	1回
		ワイドパンチ豆つぶ	250g	収穫35日前まで	1回
本 田 後 期	ツマグロヨコバイ・ウンカ類・カメムシ類	スタークル豆つぶ	250g	収穫7日前まで	3回以内

一般品種の施肥例

標準タイプ	元 肥	追 肥	
		出穂20日前	出穂10日前
標準タイプ	マップ264 30~40kg (12-16-14)	味穂542 20~25kg NK化成特 14号15kg	NK化成特 14号15kg
省タイプ	エムコート522 60kg (15-12-12)		

コシヒカリの施肥例

標準タイプ	元 肥	追 肥	
		出穂20日前	出穂10日前
標準タイプ	マップ264 20~30kg (12-16-14)	味穂542 15kg NK化成特 14号10kg	NK化成特 14号10kg
省タイプ	LPSSコシ1号 40kg (14-14-14)		

水田雑草防除(10aあたり、それぞれ1回のみ)

田植	5日	10日	15日~ピエ工3週間まで	30日~50日
			※1 残り草の多い場合	
			エワンフロアブル 500ml	トップガンGT1キ口粒剤 1kg
			トップガンGT1キ口粒剤 51 1kg	パワーウルフ1キ口粒剤 51 1kg
			エワンジャンボ 300g	エワンジャンボ 300g
				※1 残り草の多い場合 テックン1キ口粒剤 1kg 又は テックンジャンボ 500g (但し収穫60日前まで)
				グラスジノマトリウム(液) 3kg (但し収穫60日前まで)
				キシュウスズメノヒエ対策 クリッチャーバスマ液剤 100倍(移植後15日~ピエ工3週間まで) (但し収穫60日前まで)

水田雑草多発圃の防除例

田植直後	サキドリEW 500ml
田植後(10~14日)	トップガンGT 1キ口粒剤51 1kg
残り草がある場合は上記表※1参照	

スクミリンゴガイ(ジャンボタニシ)対策

- ①地域ぐるみで定期的な貝・卵の捕殺(卵はつぶして下さい)や溝さらえ作業を行う。
集団捕殺の適期は5~7月、捕殺の際はゴム手袋を着用する。
- ②1~2月の越冬期に水田を耕起して、発生密度を下げる。
- ③田植後の本田防除として下記の薬剤を散布する。

薬 剤 名	10aあたり使用量	使用時期	使用回数
スクミノン	1~4kg	60日前まで	2回以内
スクミンバイト3	2~4kg	発生時	—

- ④代かきは均一にし、田植後はできる限り浅水(1cm以下が望ましい)で管理する。
- ⑤水田の取水口と排水口に約5ミリ目の金網を張り、水路と水田における貝の移動を遮断する。

防除の注意点

- 隣接圃への飛散に注意。
- 防除器具の洗浄を行う。
- 使用基準を守り、生産履歴を記載しましょう。
- 本防除記載の農業の登録内容は令和元年10月31日現在です。